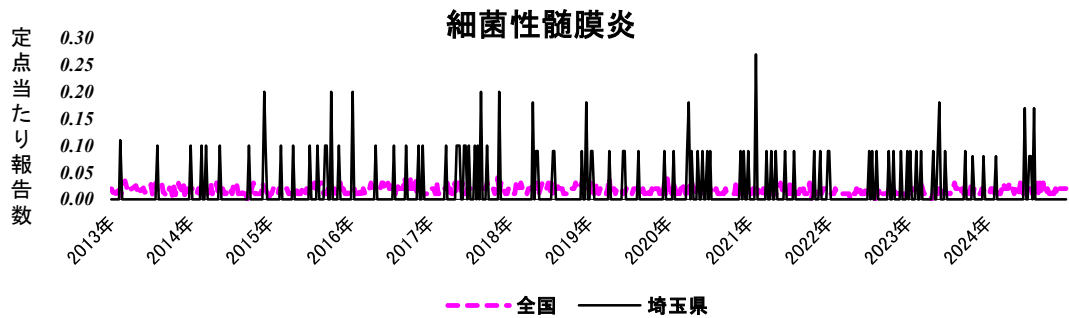


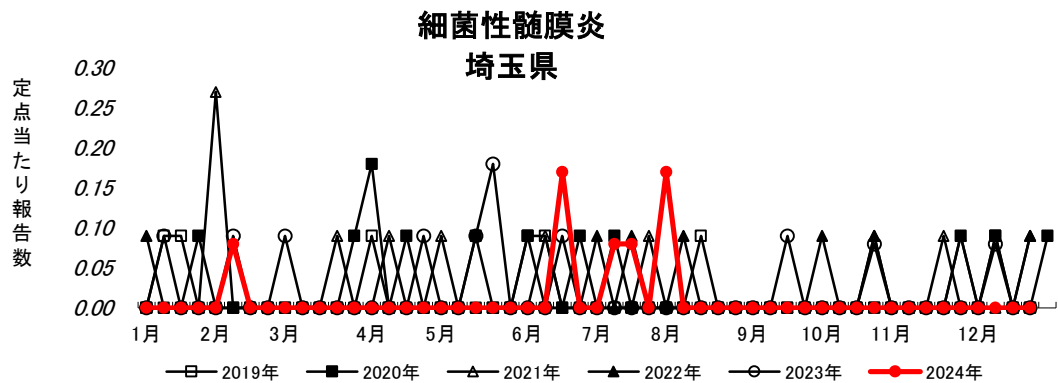
5 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

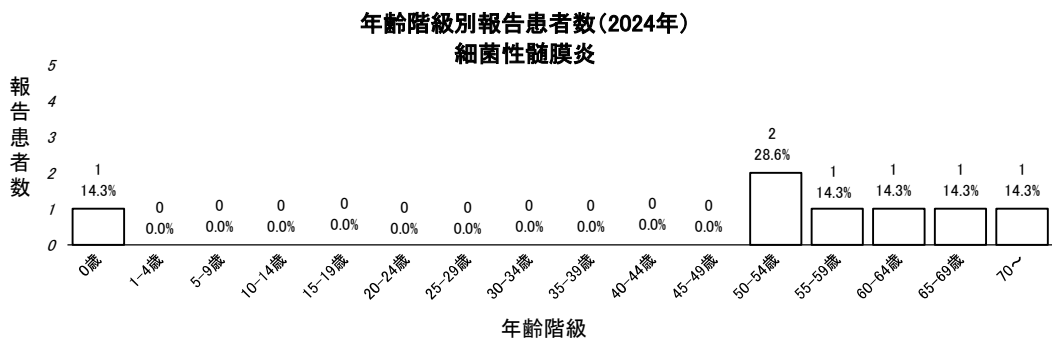
2024年第1週～第52週の累積報告患者数は7人であった。定点当たり報告患者総数0.58は前年(0.98)と比較して減少した。報告は散発的で、1人以上の報告があった週が5週あった。年齢階級別では、50歳以上が6人で85.7%であった。



図Ⅱ-15-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：細菌性髄膜炎)



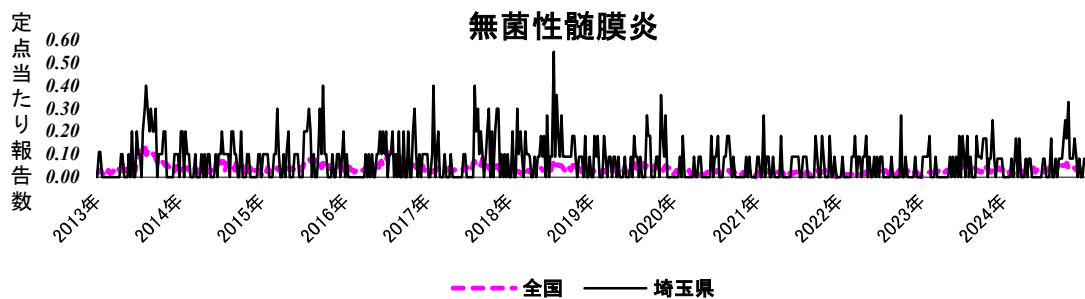
図Ⅱ-15-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：細菌性髄膜炎)



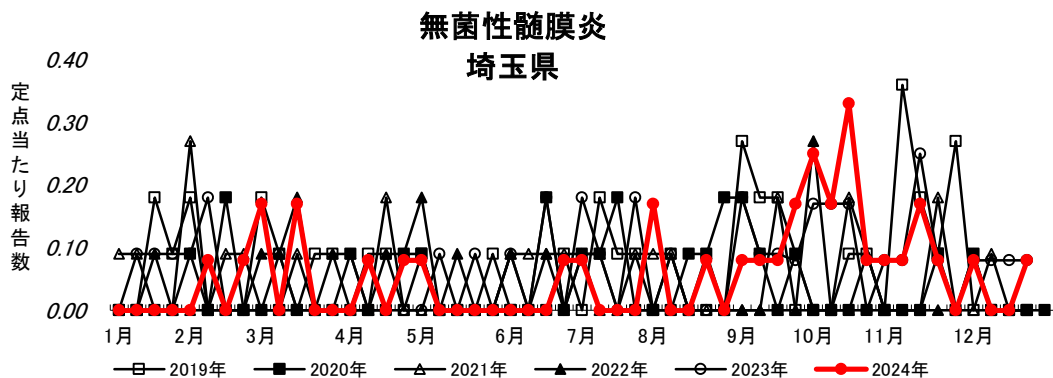
図Ⅱ-15-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：細菌性髄膜炎)

2) 無菌性髄膜炎

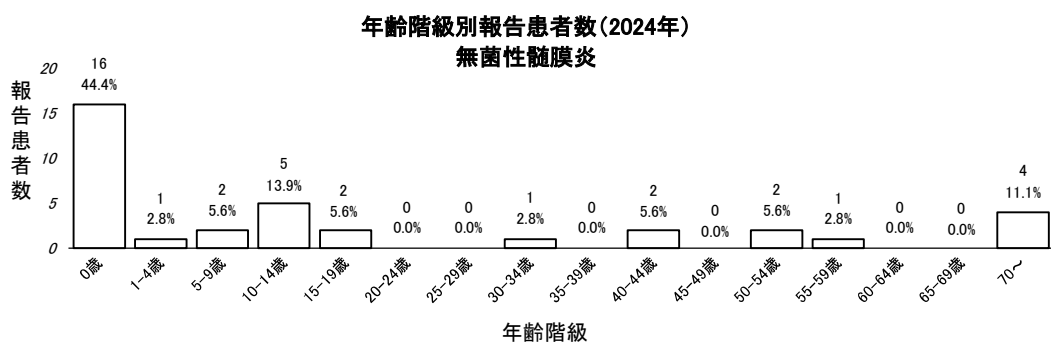
2024年第1週～第52週の累積報告患者数は36人であった。定点当たり報告患者総数3.00は前年(3.48)と同水準であった。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち25週で1人以上の報告があった。また、第36週(9/2-8)から第48週(11/25-12/1)の約3か月間で、年間の55.6%(20件/36件)の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第42週(10/14-20)の0.33であった。年齢階級別では20歳未満が72.2%、20～70歳未満が16.7%、70歳以上が11.1%であり、0歳が16人と最も多かった。



図Ⅱ-16-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：無菌性髄膜炎)



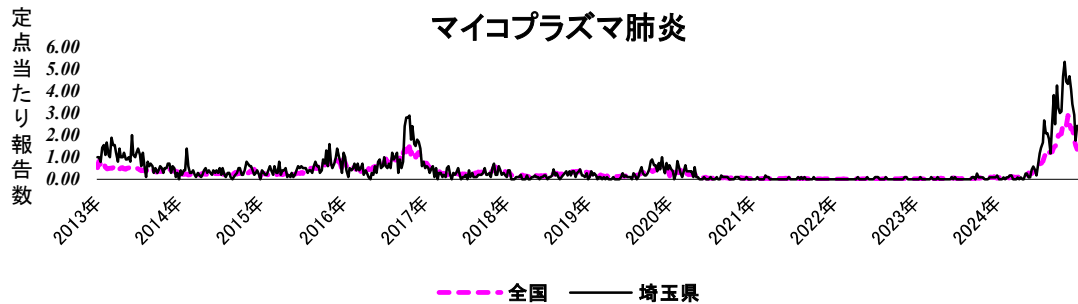
図Ⅱ-16-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：無菌性髄膜炎)



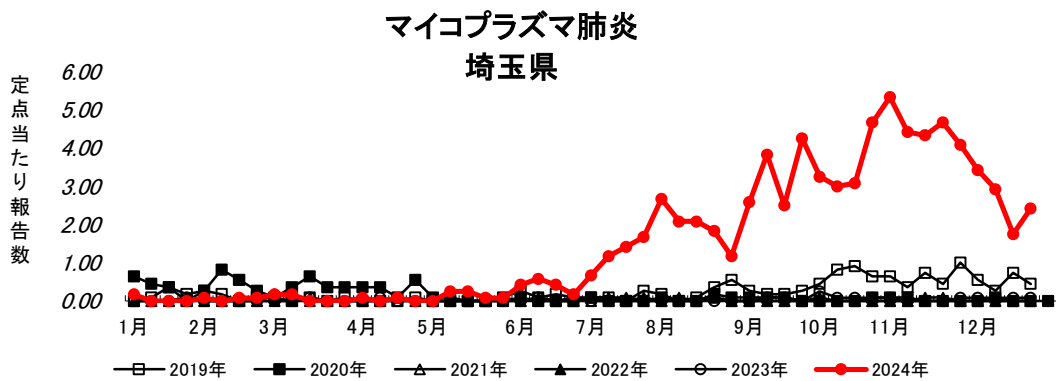
図Ⅱ-16-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：無菌性髄膜炎)

3) マイコプラズマ肺炎

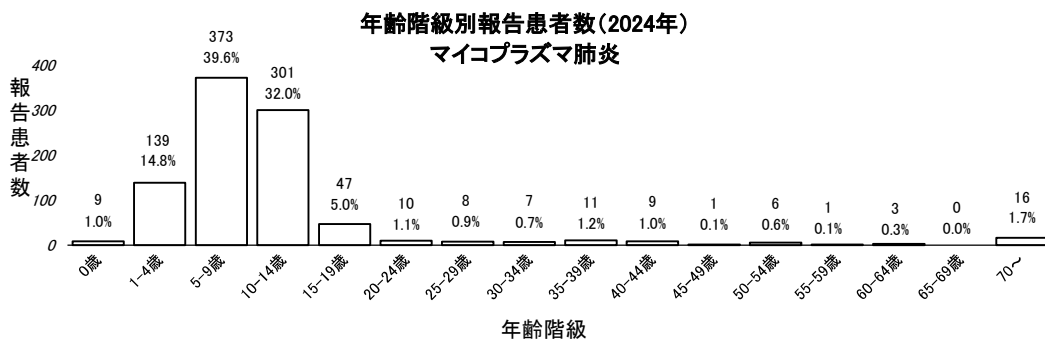
2024年の第1週～第52週の累積報告患者数は941人であった。定点当たり報告患者総数78.42は前年(1.70)と比較して著しく増加した。定点当たり報告数は、1月から6月にかけて低い水準で推移したが、7月から増加し始め、第44週(10/28-11/3)をピークとする大きな流行となった。2024年の最大値である第44週の定点当たり報告数5.33は、1999年の感染症法施行以降、最大の値となった。年齢階級別では、5-9歳、10-14歳、1-4歳の順に多く、この3階級で、全体の86.4%であった。



図Ⅱ-17-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：マイコプラズマ肺炎)



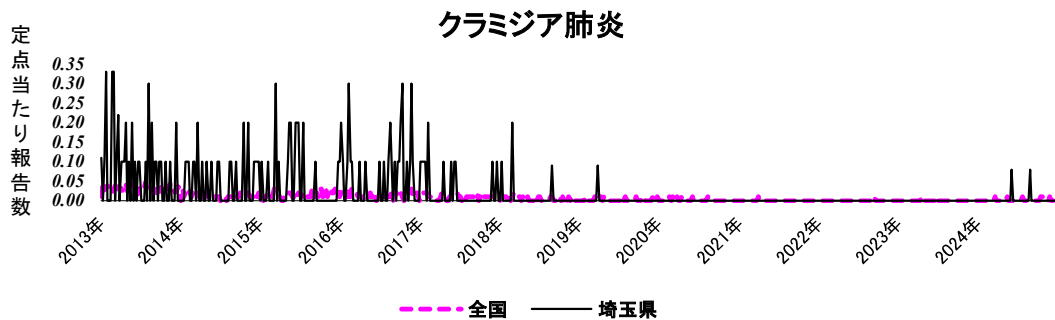
図Ⅱ-17-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：マイコプラズマ肺炎)



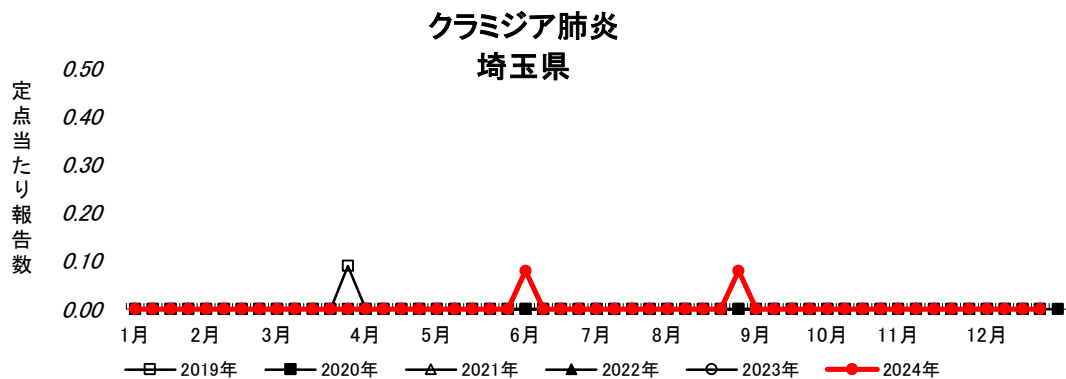
図Ⅱ-17-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：マイコプラズマ肺炎)

4) クラミジア肺炎

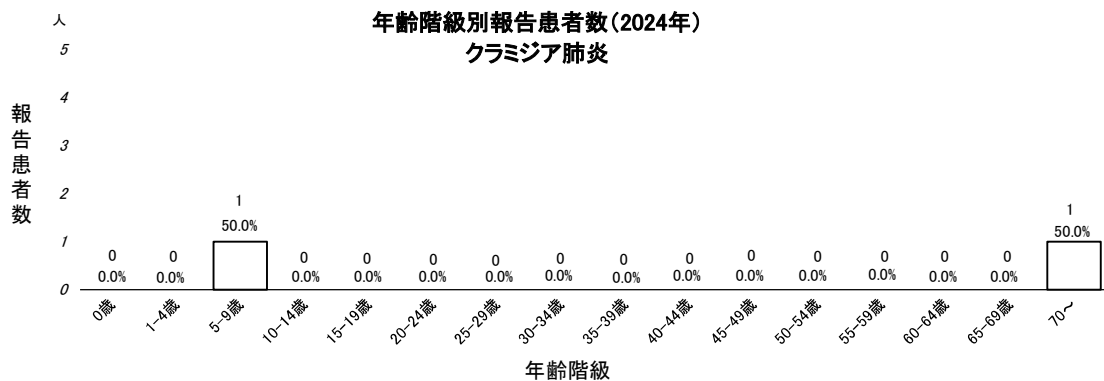
2024 年第 1 週～第 52 週の累積報告患者数は 2 人であった。2020 年から 2023 年にかけて報告がなかったため、5 年ぶりの報告となった。報告は、第 23 週(6/3-9)と第 35 週(8/26-9/1)に各 1 人であり、年齢階級は前者が 5-9 歳、後者が 70 歳以上であった。



図Ⅱ-18-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：クラミジア肺炎)



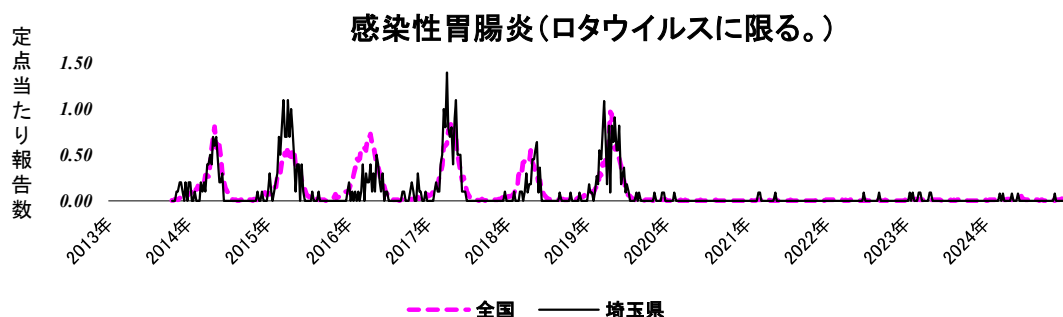
図Ⅱ-18-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：クラミジア肺炎)



図Ⅱ-18-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：クラミジア肺炎)

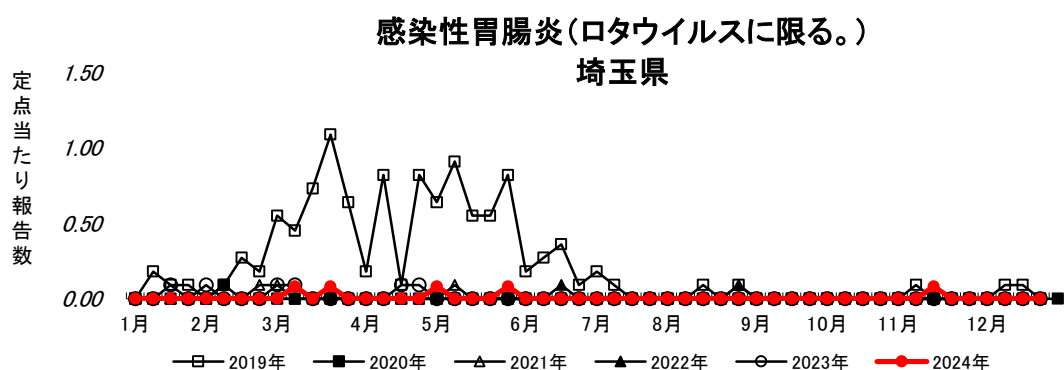
5) 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る。)

2024年の第1週～第52週の累積報告患者数は5人であった。定点当たり報告患者総数0.42は前年(0.54)と同水準で、2020年以降、春から初夏にかけての流行は確認されていない。報告患者数は5-9歳が2人、1-4歳、10-14歳及び55-59歳が各1人であった。

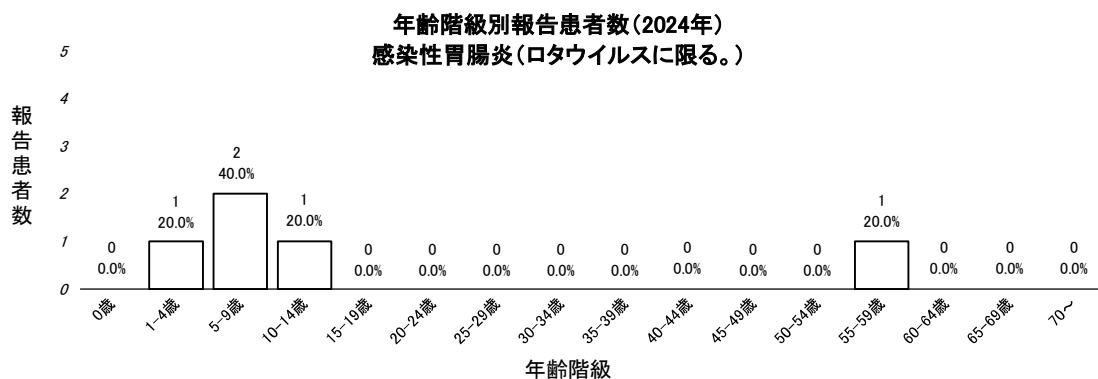


図Ⅱ-19-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る。))

2013年第42週から報告対象疾患となった。



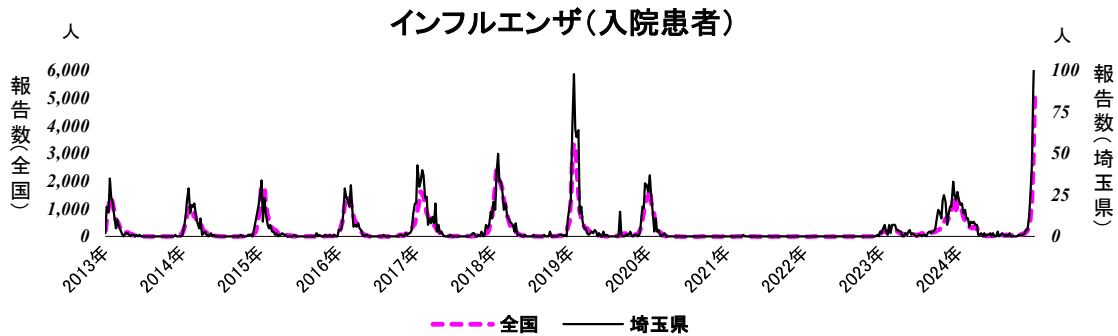
図Ⅱ-19-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る。))



図Ⅱ-19-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る。))

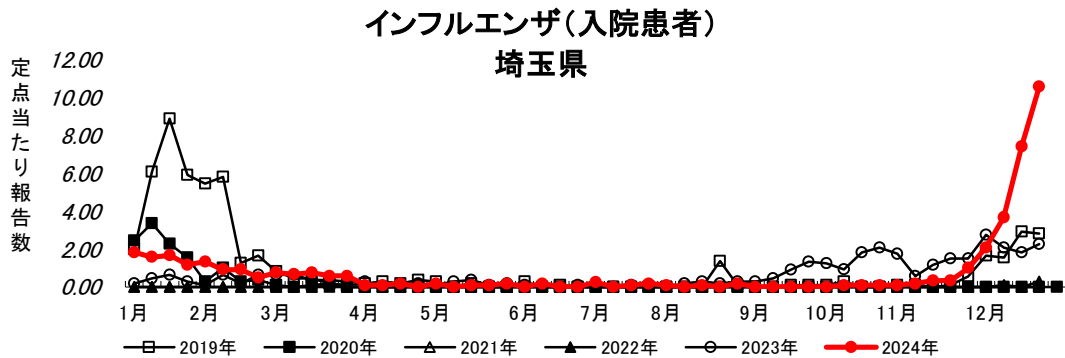
6) インフルエンザ(入院患者)

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は492人であった。定点当たり報告患者総数41.00は前年(34.11)を上回った。2023-2024年シーズンの報告数は、前年9月から3月にかけて多い状況が続いた。2024-2025年シーズンは、11月下旬から増加し始め、第51週以降、急激に増加した。定点当たり報告数の最大値10.58は、第52週(12/23-29)に観察され、前年の最大値(2.75)を大きく上回った。年齢階級別では、10歳未満が27.0%、70歳以上が43.9%であった。

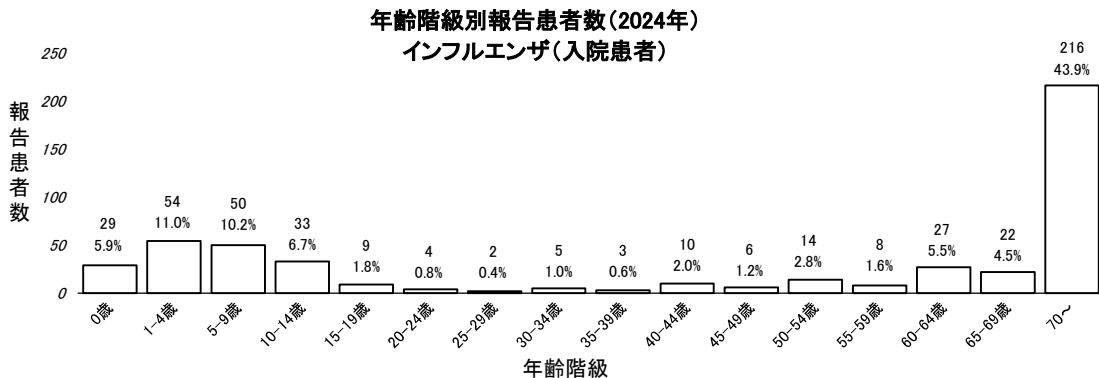


図Ⅱ-20-1 報告患者数の年推移(全国比較：インフルエンザ(入院患者))

全国の情報で定点当たり報告数の還元情報がないため、報告患者数を用いた。



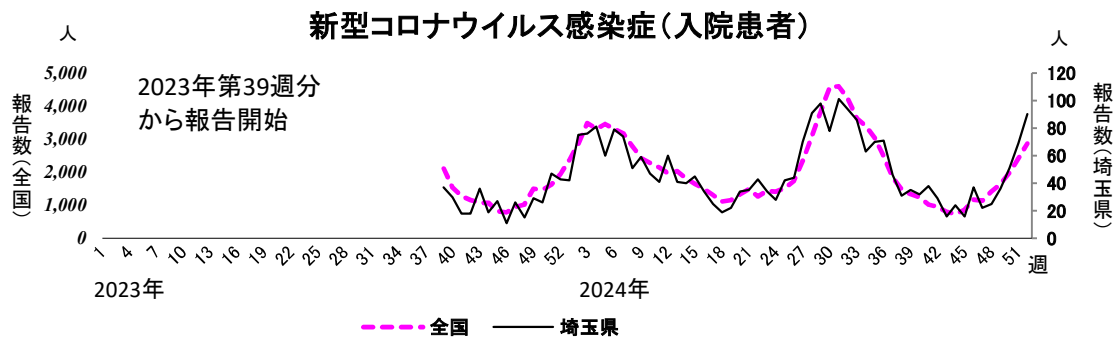
図Ⅱ-20-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：インフルエンザ(入院患者))



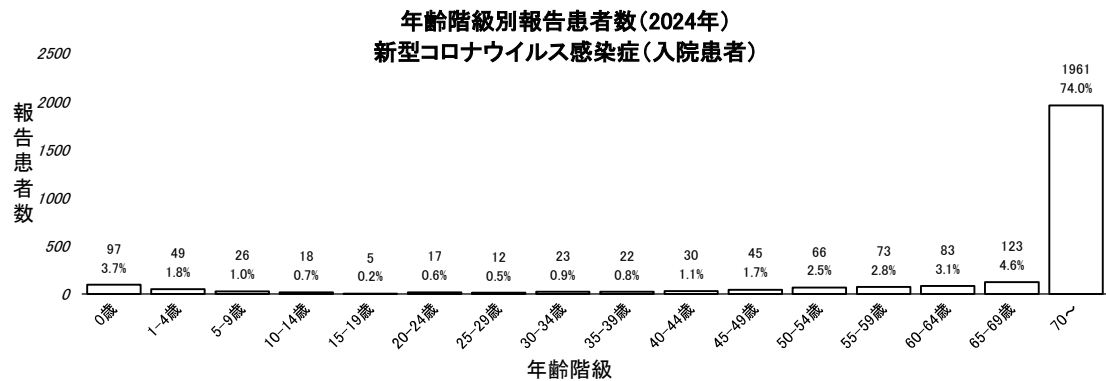
図Ⅱ-20-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：インフルエンザ(入院患者))

7) 新型コロナウイルス感染症(入院患者)

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は2,650人、定点当たり報告患者総数は220.83であった。2024年は第4週(1/22-28)と第31週(7/29-8/4)にピークが確認された。定点当たり報告数の最大値は、2度目のピークにあたる第31週の8.42であった。年齢階級別では、70歳以上の報告が多く、全体の74.0%であった。



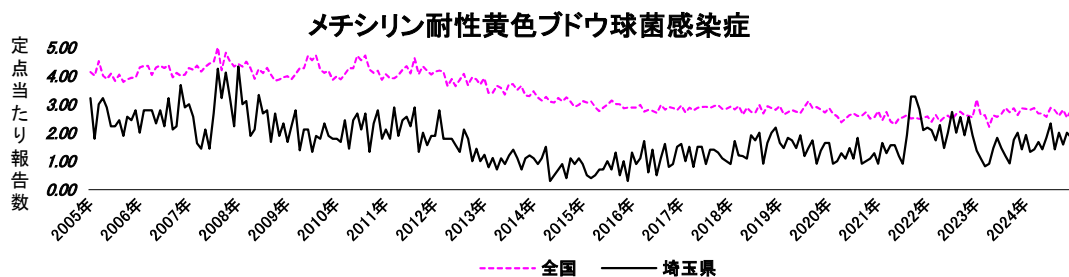
図Ⅱ-21-1 報告患者数の年推移(全国比較：新型コロナウイルス感染症(入院患者))



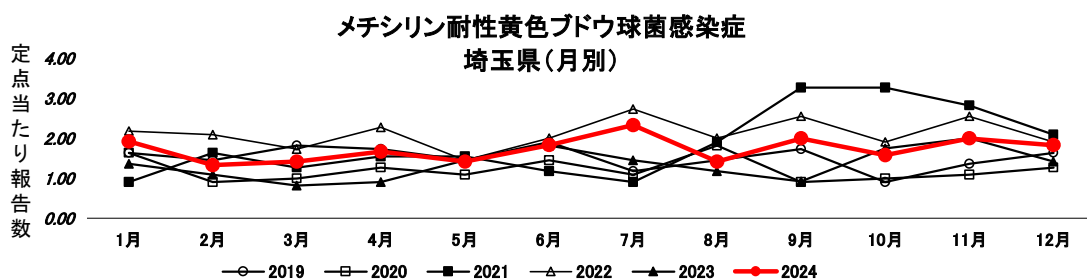
図Ⅱ-21-2 年齢階級別報告患者数(埼玉県：新型コロナウイルス感染症(入院患者))

8) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

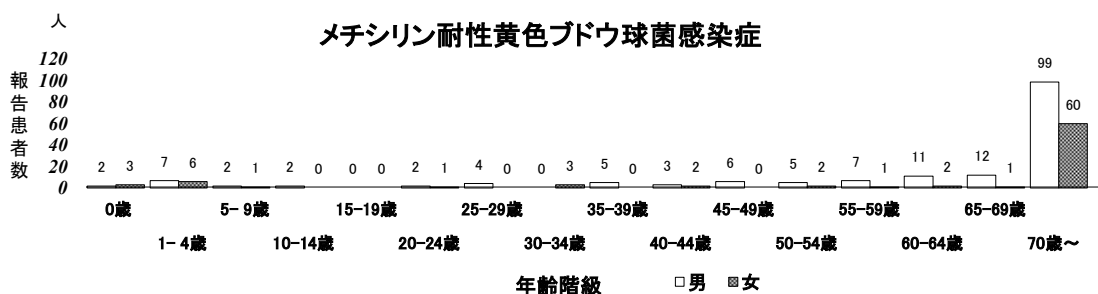
2024年1月～12月の累積報告患者数は249人であった。定点当たり報告患者総数20.75は前年(16.28)を上回った。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値1.33、最大値2.33の範囲で推移した。最大値は前年の最大値(2.00)をわずかに上回った。年齢階級別では、70歳以上が159人(男性：99人、女性：60人)で最も多く、全体の63.9%であった。



図Ⅱ-22-1 定点当たり報告患者数の年推移
(全国比較：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



図Ⅱ-22-2 定点当たり報告患者数の推移
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



図Ⅱ-22-3 年齢階級別報告患者数
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

9) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2024 年 1 月～12 月の累積報告患者数は 41 人であった。定点当たり報告患者総数 3.42 は前年 (3.10) と同水準であった。年間を通して報告があり、定点当たり報告数は最小値 0.08、最大値 0.42 の範囲で推移した。年齢階級別では、70 歳以上が 22 人 (男性：14 人、女性：8 人) で、全体の 53.7%であった。

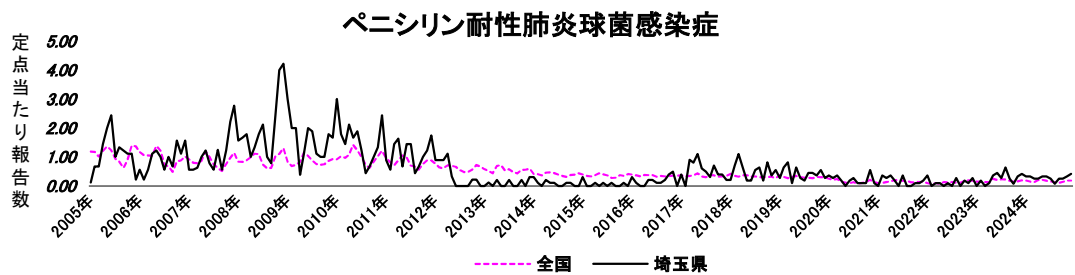


図 II-23-1 定点当たり報告患者数の年推移
(全国比較：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

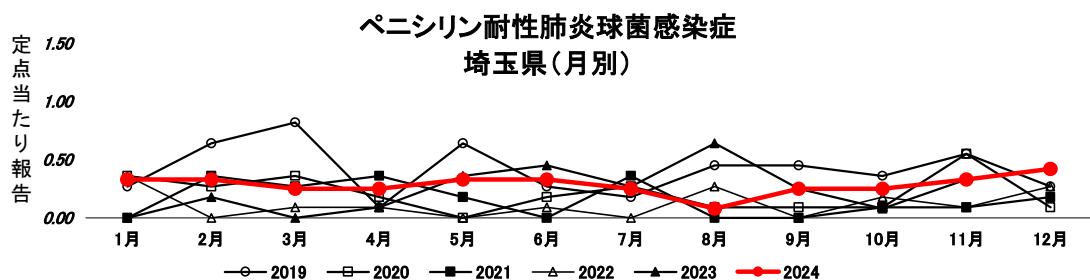


図 II-23-2 定点当たり報告患者数の推移 (埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

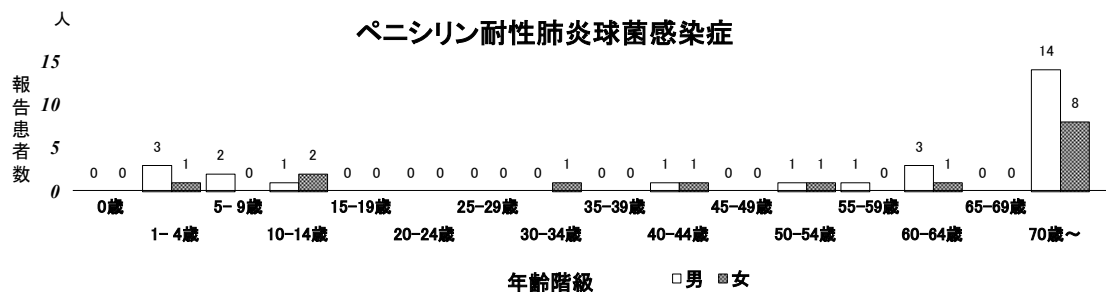


図 II-23-3 年齢階級別報告患者数 (埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

10) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2024 年 1 月～12 月の累積報告患者数は 1 人であった。定点当たり報告患者総数 0.08 は前年(0.18)と比較してわずかに減少した。男性 1 人の報告が 8 月にあり、年齢階級は 70 歳以上であった。

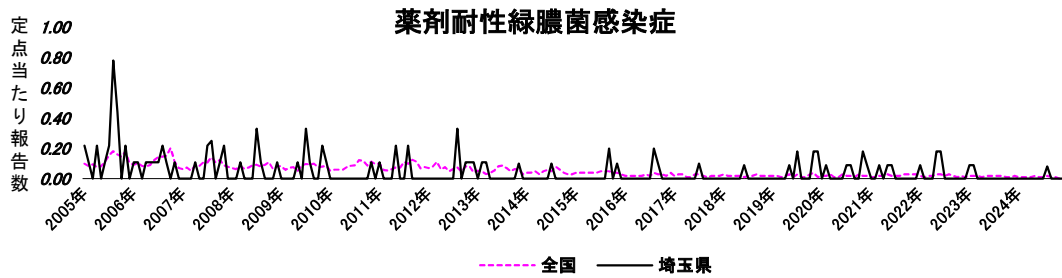


図 II-24-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：薬剤耐性緑膿菌感染症)

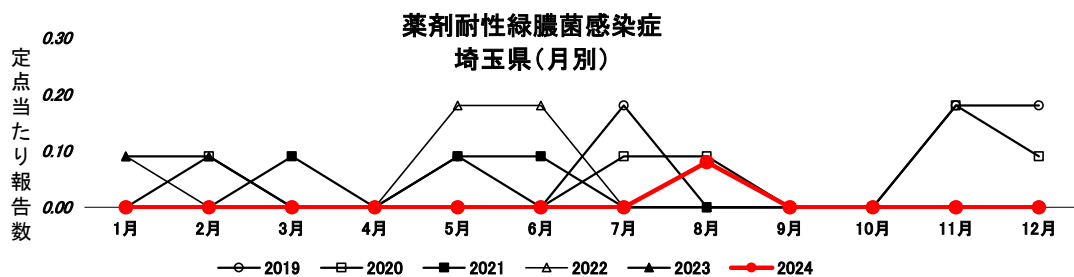


図 II-24-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症)

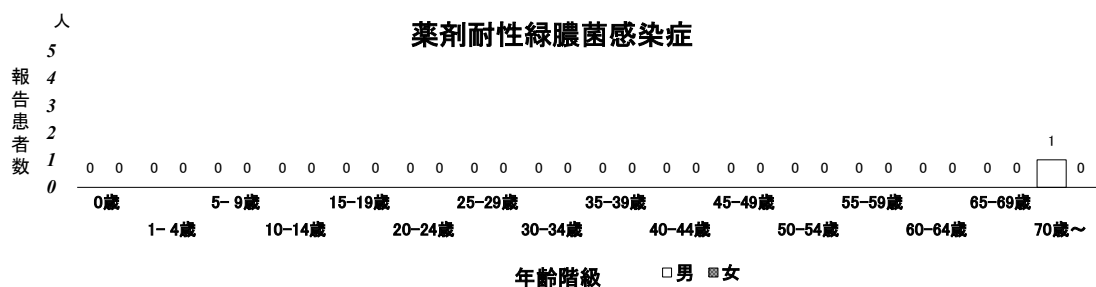


図 II-24-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症)